研 究 計 画 書

職場名：南１階病棟

研究者名：林祐也　　メンバー：山瀬悠　山下健太　今川さち子　山田士郎　大門香織

研究テーマ：

認知症患者への与薬時の患者認証導入後の検証 ～看護師の困難感の変化～

キーワード：

認知症治療病棟　患者認証　与薬　看護師　困難

研究の動機：

当院認知症治療病棟では認知症高齢者の日常生活自立度がＭに該当する重度の認知症患者を多く受け入れている。疾患の特性上、患者本人にフルネームで名乗ってもらうことが困難であることや記名できる物品が少ないなど看護師にとって患者を認証する手段が少ない。

昨年度当病棟は看護師が与薬時に感じる困難の要因に対する研究を行い、困難の要因として【患者認証手段が乏しく患者間違いのリスクが高い環境】【与薬のみに集中できない多忙な業務】【内服拒否時の対応】の３カテゴリーが抽出された。さらに与薬事故が起きやすい現状の与薬体制を変更していくことへの躊躇も明らかになった。しかし適切な患者認証に基づいた与薬は医療事故防止に重要であることから客観的な患者認証手段や安全に与薬ができるシステムを検討する必要性が示唆された。

患者認証手段を導入することで、【患者認証手段が乏しく患者間違いのリスクが高い環境】の困難感は減少すると予想されるが、手段によっては看護師に新たな負担が生じ、【与薬のみに集中できない多忙な業務】【内服拒否時の対応】ではこれまでよりも困難感が増加する危険性が考えられる。そのため客観的な患者認証手段を導入することにより看護師が与薬時に感じる困難の変化を評価し、看護師の困難を考慮した安全な与薬方法を検討する一助としたい。

概念枠組み：（ない場合は記載する必要はない）

用語の定義：

１）与薬：看護師が内服処方箋の確認から患者に投与した後、嚥下を確認するまでのプロセスと操作的に定義した。

２）患者認証手段：与薬時の6Rのうち「正しい患者」に対する確認手段と操作的に定義した。

研究の目的：

客観的な患者認証手段を導入することで看護師が与薬時に感じる困難にどのような影響が生じるかを明らかにする。

仮説：（ない場合は記載する必要はない

患者認証手段を導入することで、看護師は患者誤認に対する不安感は軽減すると予測さ

れるが、与薬に集中できない困難や内服拒否時への対応の面では困難感が増加する可能性も考えられる。

研究方法：

1．研究デザイン：量的研究(質問紙式 調査研究)

2．対象者及び期間・場所

1）対象：南1階病棟に勤務する看護師・准看護師で与薬業務を行っている病棟経験2年目以上の看護師および准看護師11名

2）期間：2024年8月～11月

3）場所：南1階病棟

3.データ収集方法

1）研究方法

①患者認証方法のアンケートを実施

②患者認証方法のアンケートを実施後、研究者間で実施案を選定する。

③改善案実施前に、昨年度明らかになったサブカテゴリーの項目に対してアンケートを実施し困難度を数値化する

④改善案の実施

⑤改善案実施前に、昨年度明らかになったサブカテゴリーの項目に対してアンケートを実施し困難度を数値化する

2）分析方法

アンケートによる統計的処理を行う。

改善案実施前後での変化を比較する。

倫理的配慮：

当院倫理審査委員会に申請・承認を得る。無記名のアンケートとし、冒頭に研究の目的、参加は自由であり不参加であっても個人の不利益にはならないこと、本研究以外ではデータを使用せず研究終了後に破棄すること、アンケートの投函を以て研究参加に同意したとみなす事を説明する。研究終了後 5 年間はデータを保存し、データ管理責任者は副看護部長である。

タイムスケジュール：

5～6月　文献検索　研究計画書作成・提出

8～9月　研究方法①・②・③

9～10月　研究方法④・⑤

11～12月　結果分析、論文作成

1～2月　PowerPoint 作成、院内発表

予測される研究の限界：

対象となる看護師が少ないため結果に汎用性が無い可能性がある。

文献リスト：

引用文献

山瀬悠：認知症治療病棟で看護師が与薬時に感じる困難の要因

参考文献

山瀬悠：認知症治療病棟で看護師が与薬時に感じる困難の要因

竹内千恵子：内服与薬業務におけるインシデント発生要因の検討-看護師経験年別比較-，日本看護研究学会雑誌，214，28-3 2005

竹内千恵子：内服与薬業務におけるインシデント発生要因の検討2報-看護師経験年別比較-，背景要因による比較，日本看護研究学会雑誌，153，29-3 2005

添付資料：

患者認証方法選定のアンケート（研究者間で相談して作成）

看護師が感じる困難に関するアンケート（今後作成予定）　（研究者間で相談して作成）